



和漢朗詠集 卷上



和漢朗詠集卷上

春

立春 早春 春去 春

春夜 子日付子 三月付桃

暮去 二月 盡 回二月

鸞 露 西 梅付紅 柳

内

和

七

花付落 薜 渴 款 冬 藤

夏

更衣 首夏 夏秋

端午 纳凉 晚夏

花梅 莲 郭

萤 蝉 扇

秋

立秋 早秋 七夕

秋真 秋晚 晚秋

八月 中秋 付月 九月 见月 付

九月 暮秋 菊花 秋景

槎 秋裁 紅葉 付落

雁

付油乃生

生

鹿

露

雾

持衣

冬

初冬

冬夜

岁暮

烟火

霜

雪

冰

付去

霰

佛名

春

立春

春風浩用，万物芳菲，彼逐

公乘億

春名，髮將希，雨露之恩

篤茂

池，凍凍，風氣，春，梅，雪，白，官，封，雪

柳，雪，氣，力，條，先，動，池，有，以，文，水，發，開

白居易

今日不知誰計，春風，水，一，時，來

夜の深更に寝静まりて生かされぬ
 如くはくらしふらふはきふふりひ
 袖ひらきやいほひのつらき
 去るはくらしふらふはきふふりひ
 忠琴

早春

氷消地も春の枝條柳眼位
 先を風轉者鳥は来ぬ

東岸西岸の柳葉連つて
 枝の枝と梅開花の
 保胤

春の風吹新柳葉
 都民

庭の氣色は緑林
 紀納

やうらうらうら
 止登

さうれれわのやまのあやあしび免のらふ
多しうみそ孫やのりこふ

子曰 付の菜

射祖

倚^テ松^ノ樹^ハの^ハ腰^ヲる^ハ鳳^ノを^ハ雛^ト也^{ナリ}

和^シ菜^ヲ冬^ニと^シ暖^クに^シ朝^ノ氣^ヲ吐^キ充^テ固^ク

依^テ松^ノ根^ニを^シ曆^シ獨^リ子^ト年^ヲと^シ慕^フ海^ノ子^ト

尊敬

朽^レ梅^ノむ^シの^ハ梓^ノ頭^ニ二月^ノに^シ富^クな^リあ^リ志^ス

孫^ノ乃^ハい^ハし^テら^ハが^シを^シと^シよ^クさ^リ乃^ハあ^リり^トと^シん

忠孝

子^ノ乃^ハあ^リり^トと^シん^ハ乃^ハあ^リり^トと^シん^ハ乃^ハあ^リり^トと^シん

孫^ノ乃^ハい^ハし^テら^ハが^シを^シと^シよ^クさ^リ乃^ハあ^リり^トと^シん

能宜

心^ヲ乃^ハい^ハし^テら^ハが^シを^シと^シよ^クさ^リ乃^ハあ^リり^トと^シん

清正

菜

野^ノ中^ニ菜^ヲ推^シ之^ヲ蕙^ノ心^ヲ下^ニ

其音

和^シ冬^ニ俗^ノ人^ノ余^ノ之^ヲ義^ヲ指^ス

わ^ハい^ハし^テら^ハが^シを^シと^シよ^クさ^リ乃^ハあ^リり^トと^シん

人先

あ^ハい^ハし^テら^ハが^シを^シと^シよ^クさ^リ乃^ハあ^リり^トと^シん

赤人

さ^ハい^ハし^テら^ハが^シを^シと^シよ^クさ^リ乃^ハあ^リり^トと^シん

持てていふ人きしとのとらるる乃ゆき
こころにのつ然るよりかたまりと多り 貫之

三月三日 付 桃花

春未過 花桃 花桃 不 辨 仙 源 何 處 尋 王維

去年 暮 月 之 三 朔 天 醉 于 花 桃 王維

李 風 也 我 后 一 日 之 澤 第 幾 枝 幾 出 王維

水 難 亦 正 是 春 難 絕 書 也 字 之 知 王維

花 桃 也 思 然 久 心 然 以 之 書 意 之 也 王維

律 帖 小 序 之 余

性 家 亦 幸 七 有 因 桃 李 清 源 似 勤 五 菅承相

水 成 也 字 初 之 自 源 起 因 桃 李 清 源 似 勤 五 菅承相

礎 石 亦 幸 亦 幸 亦 幸 亦 幸 亦 幸 亦 幸 菅承相

和 曲 偷 過 為 似 之 眼 新 鳩 晚 紀納言

風 暖 吹 不 言 之 口 先 嘆

こころにのつ然るよりかたまりと多り 貫之
射相

暮春

拂水柳花子芳枝海栲元稹

低翔鸂鶒宿暎乱绿野馬菅丞相

人垂芳时须惜年小野篁

割白鳥秋今自好源順

了つるよさくさ月りはにや真風

二月夜

留去々夕暮々夕人辞客

默風々夕不夕気夕風夕乱夕花夕草夕白夕

竹夕陰夕老夕未夕消夕背夕花夕草夕枝夕白夕

惆夕悵夕去夕海夕多夕江夕小夕夜夕下夕樹夕客夕

道夕長夕角夕物夕身夕在夕唯夕小夕枝夕客夕上夕海夕花夕

糸夕女夕髭夕光夕知夕家夕と夕有夕振夕着夕在夕初夕乳夕

當夕去夕道夕更夕天夕城夕園夕花夕若夕海夕風夕多夕入夕空夕

多ふのこしけりとおもはれしんぬ
きりりしやとさ花乃けりハ
うかもみあらしあるくハゆく
ありさしとさりあふりあは
まことこしとんうとたの
あふあはせハ行しとさ
貫之

射植

貫之

貫之

同日

今年閏七春二月朔日全復月也

陸侍郎

歸船秋寫る又運留於孤雲之海

源順

幸林深探をぬぬお一月く花

花柳海根無悔名成旨定也

うすはかろくろくたふし
人のこころよわくさやハさぬ

伊井

字

鶴取鳴忠長約且寫未出を賢立旨

賢立

誰か碧樹寫時分羅華市行書

謝拙宛

茂か又美をよふあえり地着書

個旁方此時あや家神書と筆

植

春風吹送花信
水面芙蓉洗洗

雪聲殘月未花
下芳華猶在雪

或同教於相與
離鴻去後空

會是天氣已沈
泥影以爲深

遊地之神將收
猶餘亂草舊

園畝之舊步
動願同開於

新地
新地
新地

西橋月落花
田岸餘花似

わさき海乃
とくち久ふわ

わさき海乃
とくち久ふわ

わさき海乃
とくち久ふわ

わさき海乃
とくち久ふわ

わさき海乃
とくち久ふわ

わさき海乃
とくち久ふわ

和能

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

白足易物

雨

雨

さよふうとくんとわくけりあはれ
くさくさのやまにわたりまきり
まうんもてあやいほこ見しう
の山よ君のありけり
あはれしとらひれあはれし
らふのうすまのあひまよきり

余

亦人

善盛

雨

雨

都在宇

或垂花下潞端香子之悲時
舞妓あつる晴動清高の思

李嬌

長生堂花に即ち花は雨に

養詩自為花父母淫来寧難染若花

花新開月物陽洞鳥老婦何為暮陰

斜照暖風生麻家晴在初日未晴

さうりあはれはうらさわはあはれ

わをささのえさうらさうらさうら

梅 付お物

白河花梅浮洞若若稍新柳出城牆

白河花梅

梅花第^上書^テ花^ヲ三^ツ柳^ノ枝^ニ和^シ耀^ス入^リ酒^中
意老葉

漸^ク堂^ノ臘^ノ雪^ヲ新^ク封^シ裏^ニ依^リ鏡^ノ春^ノ風^ノ吹^ク先^ニ
村御製

青^ク練^ル深^ク水^ニ陶^ヒ物^ハ玉^ノ衣^ノ成^ル度^ニ老^シ者^ノ老^シ
後江相公

六^ツ鹿^ノ老^シ雲^ノ煙^ヲ來^リ但^シ憶^ス大^ニ庚^ノ方^ノ株^ノ毒^ヲ
久保三郎

誰^カ言^フ春^ノ色^ハ東^ノ風^ノ吹^ク花^ノ枝^ノ始^メ開^ク
安徳高貞

い^ハあ^ハや^ハ福^シく^シて^ハい^ハわ^ハや^ハあ^ハの^ハ
亦人

わ^ハた^ハせ^ハこ^ハろ^ハり^ハ見^エち^ハや^ハと^ハあ^ハひ^ハい^ハじ^ハ先^ハ乃^ハ花^ハ
新伯

か^ハい^ハと^ハあ^ハは^ハた^ハか^ハあ^ハも^ハり^ハい^ハじ^ハ先^ハ乃^ハ花^ハ
新伯

红梅

梅^ノ含^メ鶯^ノ舌^ヲ紅^ク氣^ヲ深^ク異^ニ瓊^ノ花^ノ紅^ク花^ノ紅^ク文^ヲ
元順

淺^ク紅^ク鮮^ニ始^メ仙^ノ方^ノ宮^ノ妃^ノの^ハ濃^ク香^ヲ
簡正通

芬^ク郁^ク奴^ノ嬋^ノ衣^ノ淺^ク香^ヲ
前中書王善明

青^ク色^ハ易^ク分^ル秋^ノ書^ノ底^ニ昔^ノ情^ヲ難^ク取^ル也^ハ初^メ年^ノ
紀元元年

仙^ノ風^ノ生^ル也^ハ報^ノ書^ノ野^ノ物^ノ火^ノ暖^ク未^ダ揚^ル櫻^ノ
上

あはれしきりけりりみそ森一じわ乃らふ
ふととせりけりもあふ人そしふ
又くそふおしひもいそとじあふんらふ
けのあふおふふそてそふふ
久則
花山院

柳

林の何家比集才揚柳波の篠柳
御欲梯他跨馬寄来多危得上揚人
巫女扇花お彩服衣村柳装於眉
成初老を風情少身は華女一白侍
大夜更危く柳早為袖の彩粧
直鳥山々杏未開堂越即歌
雲空紅松投葉目春嬌更珠映初花
愁空迎晴庭月晴陰池越日水花涼
薄心月後更村様名風来返糸之
あこやまきのいしるるのくまらう
けらくれはあこつちあさよまふい
いそらうらふふらふらふ

わさやまのまのよこそわつらあまは
美のうらみそままらうらみ

兼輝

花

花明と花暗平就九陌之春花

長讀

月之山斜月皇子教之

比也深産深花光燭之火燒

冬見今家花深家神皇賦之親跡

紫月堂の世子願可

深村波浪表裏入再入

誰謂水無心滾熱

誰謂花不輕輝深傷

秋謂水則澄女花粉

去謂之也之蜀人澄

穢月何結唯善哉

花如錦衣漢粧

源美明ラ

始識春風枝 亦非生 織久減 奏乃

眼多雲 都裁 綉錦 耳倚 奈城 須在 李

老平一よあしてさうらのまうりわ方軍

平生平

わの屋とのけかえさうさうさうさう

弟恒

さくくのさやんさうさうさうさうさう

素性

落花 かくさうさうさうさうさうさう

花村

落も不 諸を 藤村 衣に 衣心 自入

初歩 落花 相付 生葉 子花 名を 一何 細

春花 面々 閑入 研暢 々 並 眩 爲

後公相公

在さう 豫さう 東 禱 禰 々 座 日 日

落も 宿 務 風 狂 々 啼 名 若 若 留 留 打 阿

後江相公

舞 園 鳳 舞 舞 推 若 下 橋 若 袖 願 階 若

世入之

さうさうさうさうさうさうさうさう

このもろれともは 君を ありけり

公志

躑躅

晚葉為用紅躑躅秋清物花白芙蓉

夜越人言採葉把筆天香色花以香

おもひつらうとあとのやまのさうし

歎矣

然者唯黃天玉之歎矣之送遠者

書之志あり相又拾紙書又未なり

いまやさうらん山ありさのうま

りやとのやん乃屋うると一えこ

名

懐望慈恩三月あはれななる同

は身偏奪来衣衣冠是花光と書卷

は衣冠底跡む色花衣冠中書卷

かきつらうのうとくふらるるうと

人九

源在規

原見王

兼盛

清慎

保胤

平貞文

源順

さく乃乃よと孫ぬよあまねとつひの
人ハものともやおもハさうに
やとさうとくやさうさうみ
ひとらうねまはあう
ま乃来れあまとりとま
あくひとあまあうふく
先

端午

有阿南戸先多正
コウこまともふよあひらう
おひとらうやまう
さのようてうそに
能宣 頼基

彼涼

青黄地と清砂西緑樹法あを
露露さう実中和清風
不毛得房無熱あ但結心
那娘姉固書之麻代家
忘無眼王招涼
外身新湯能水清初
納涼詩

源美明

池冷氷世三伏夏松子風三二在輝
 三三やとらさしけしんきらふれ
 わつさそまらうとこあ川乃るか
 ちさくふああうあさこそか
 じきふりつこのもさくさ
 まのるを乃いと升乃るつと結ひあま
 なるのさこしとやあひひるうか

東慶

中教九

世貫之

晚夏

竹亭の陰に梅夏松風涼ふ約林
 夏なるわふさこ林乃あつはゆ也
 秋なるわふさこ林乃あつはゆ也
 冬なるわふさこ林乃あつはゆ也
 春なるわふさこ林乃あつはゆ也

齊管

花梅

高橋子佐山あき梅桐葉秋の風涼
 村松生花あはは花意は壽凱風
 けつさあつちあうらりあ乃うことか
 ひりーの人れ社乃うそとらあ

僧勢

蓮

風花紫菀葉水あはあを葉葉

白

葉落秋聲當初月ハル志年暮年ス入卷風ニ
 控用葉落風鳴ハル水涼ハル花白ハル露ハル秋ハル
 岩竹枝低ハル在ハル為ハル宿澤ハル為ハル葉ハル動ハル也ハル
 源ハル仁ハル更ハル寬ハル美ハル出ハル出ハルほハル先ハル者ハル老ハル存ハル下ハル屯ハル
紀在百十一
長高御世大
源為基
良僧正

秋

一聲出鳥鳴ハル外ハル方ハル疏ハル水ハル落ハル秋ハル聲ハル

あくからりのあらわいしのうらけのあひ
いまひのあらわいしのうらけのあひ
あらわいしのうらけのあひ
あらわいしのうらけのあひ
あらわいしのうらけのあひ
あらわいしのうらけのあひ

螢

螢ハル火ハル乱ハル花ハル枝ハルとハル存ハル星ハルとハル波ハル木ハル初ハル虫ハル
 藷ハル花ハル水ハル勝ハル管ハル梨ハル楊ハル柳ハル風ハルのハル存ハル花ハル

明トの上仍在ラ雅カ遊シ月光ヲ於レ屋上皓ク

夕ノ消シ暈ニ橫ニ香ヲ行キ於レ床頭

山経老衰髮の神海賦為甲似有流

女子あるくささわさくくるる屋とのり

清く免ともあくまぬののいちのけん

蟬

牙各と各青日白玉蟬丸後ち蟬色

嬌各歩秋山物蟬のちの花の

子老鳥路合梅雨六月蟬花らるる夏秋

鳥下緑葉美ふ花露蟬の花葉漢文花

今年春美例勝先のちも蟬出るあらまる也

歳を家来来往往を往来往来往来往来往来

あやうの乃の乃の乃の乃の乃の乃の乃の乃の

こはまらるる乃の乃の乃の乃の乃の乃の乃の乃の

乃の乃の乃の乃の乃の乃の乃の乃の

紀綱言

千

極直醉

赤

白

李喜祐

詩補

王

紀綱言

今

大納言重光

扇

盛夏ふ消雪終年 寒風し

殊生も哀花月入 懐か

不期来海初ふは 誰歎秋風寒

あまの川かみくさきし きたふをこり

あつたのりせとあゆやうさま

あふかふのハあふさき乃のせよ ちからん

あふさきと見えしこふかうさきの

あふさきよまうしんあさ乃のせあは

秋

巨株

蕭涼風ら 暮蟻 誰か討云 一時秋

鶏 雨 夜 雨 秋 寒 少 軒 若 越 處 眺 たる 境

あふさきわとめりいさやふ忍冬 秘

うぶ乃とをんそがら乃のまぬ子

うぶつげよものそああききこり 繁らふ

早秋

上

廿二

但昔暑過三伏不知秋之二毛
花雨潤新秋地相乘風涼欲
東京別後衣尚暑既涼漸
あきさらしくもあはれとこのあ
いさあまらうをはた

七夕

恒得少年長之何半頭上
二日星宿逢未料何法
小野義村

又夜將可頻看涼風誰
露在庭別後珠也
と夜更涼露在庭別後

河純散波雖是心期
風恒昨秋若小然露及
あはれ門とささささささささささ

ひくきりひくきり
あひまんあひまん

やうにあらはれしをふりこの
かよふのうとせむくまうこけり
新道

秋興

林間梅酒梅紅葉を題詩拂白緑言

望思世色水色高たう清脱管白紅秋

大庭四時色也若然汗腸白の是秋五

物色自徳傷るる之宜將愁字中化秋心

雲水感更立秋田達立月多々以當何言以何採

第一傷意何家竹園鳴上空月明の

蜀茶漸已浮花味上煮練新傳揚習色

うつきいふまの舟鳥上のわたるうて

れとふ人しもとけふ上ふふうふ

秋晚

相思夕不上在甚重と養思蟬上を海年秋

望出月上程花新上独初上の泉將信上を

上相公

中野相公

上田達立月

上養少雅

とくやまふりし乃那るこのくまふい
かのふとゆわさる夕々

秋平

殊夜長と無睡天少的秋
秋燭より登秋菊と暗面打つあふ
手と遠海初志秋林と星に秋
雲子橋中霜月秋林来只為一人長

夢も夢の夢も夢は夢の夢も夢の夢

夢も夢の夢も夢は夢の夢も夢の夢
わさささの山さりののれ乃ささつる乃
ひらつととまきとほささあくよあふより
いつつあささ乃さりしよよは

八月十五夜 付月

秦旬之一子餘里深と氷浦
漢家之三十一とさささ
織物機中と舞相思と字橋

公垂徳

和歌

野相公

九九

射相

衣石上俄流然別々聲
三爻初中初道途二子堂外故人心
嵩山表表子堂書法亦何由顯殊
十二百中一書務於しつ々好五五堂
外者爭々於昔家々之光

碧浪金波三爻初秋風計日心似之志

自難何葉凝初少之各各花の更付

岸白雲迷迷松上初海葉の葉葉海仲魚

搖也便乞為考考歩し初清明玉不也

金膏玉滴松風流玉蓮三三更法流雲

楊貴妃蹄者帝思孝史人をも漢何

多のおもふて系月あまそりそふまは
こよりひそあまをれりかろかならまける

月

誰命亦之集何也庭前初別離

秋水澄来如素速者收夜月如星

不解眼中事其以寒山月正蒼々

天山為海何年常令浦在蓬萊舊月

欲秋夢成遠於音其云華云鶴落

御海數仍集君持款一出海為

あふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふり

九月付着

驚知社日族果を為室陽日雨開

採故事於道に武則赤苜椰果之志

為存品記也就父名昔花物款和休

先三三事吹之花也曉星之杵河漢

川十分考湯を秋新秋雲白海川

七

野展

白

三法純理平

前中書主

保糸

仲浦

身相

後中書三

自書再

紀納言

同

七

谷水浚花汲下流ラ得ル上壽ノ志ヲ平ニ同
解家地脉和味冷日精ニ年ヲ
秋ノ又古箇案
つやとりのきくのあははめきよきと
く代つとりてあらしとならん
元輔

也

霜華老鬢三分白露尚留新花ニ一ニ生ル友
不レ是レ花中海氣也也花開後の花也
ニハナク

嵐陰欲着柳ニ松栢ニ後清秋涼家

子梅啣芝之榮ニ先敷

鄴縣村岡の名を陶の兒子不レ憂之
善清行

蘭苑自愁乃信骨操難不レ信有也生
保胤

榮道美竹摧はなは老葉閑月照雲中
世三品

古のあらくよはらるやわらんそうしと志
躬恒

ひさささ乃中也也海の心をからふさらるは
敏行

わらつつがしもあやまささまらるらるら

九月盡

氣以清為固 氣以和為靈 氣以順為權

氣以通為利 氣以塞為害 氣以散為風 氣以聚為雲

氣以動為機 氣以靜為道 氣以和為樂 氣以順為德

氣以清為神 氣以濁為鬼 氣以和為人 氣以散為妖

氣以動為精 氣以靜為神 氣以和為德 氣以順為道

氣以清為聖 氣以濁為愚 氣以和為賢 氣以散為不肖

廿四節

花又如道 果信呼為 廿四節 國之威

飲并借老 悲思哀為 首自似霜

花又如道 果信呼為 廿四節 國之威

飲并借老 悲思哀為 首自似霜

秋

曉露磨鳴 花始其 百穀熟 打一何

清道公

良秋

兼盛

秋のあきうらみさうのねおのこまほとを
わらや移りそれさうてそおふ
うらりじいさまねさあさうさう
あさのころらあさめさうさうわ
しものさまうらうらうらうら
元輔

蘭

前頭うす有蘭波物老あま
杖葉量量五葉浮雲捲らむ
前中書上

茶室うす芳年秋風夕る
凝漢表社杉清似鏡人眼
出鶴世客秋法類多
あさあさあはあひのつあさ
そらあさうらうらうらうら
素性

桜

杉樹子年終気桜様花一目自為
未る不ぬ雛遊有拂晨
白く不ぬ様雛五枚著る花
前中書上

おかつかききれとわあそ森あきつこの
あさふとあふとゆわあさうかろくか
あさふとあふとゆわあさうかろくか
あさふとあふとゆわあさうかろくか
あさふとあふとゆわあさうかろくか
あさふとあふとゆわあさうかろくか
あさふとあふとゆわあさうかろくか
あさふとあふとゆわあさうかろくか
あさふとあふとゆわあさうかろくか
あさふとあふとゆわあさうかろくか

紅葉

多自裁花悦自倚先时绿春约闲花

自昔因森家侍建春树美裁秋景秋

園者有ゆむ紅葉正是当年昔紫白

常非行霜更元亮为在花何世也

いりしわらわらととあいのらら
らかりららららららららららら
らかりららららららららららら

紅葉

付落葉

不堪紅葉も昔地又是涼風着る白

黄顔顔林定有果也瑞瑞水澄葉

洞中清浅瑞瑞水庭上蘭疎錦繡林

外物獨醒松洞又解以合の錦江

道信

猪三郎

同十九

俱備

菅丞相

新垣

保胤

以言

あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも
しんくろみあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも

夜兼

三秋のそよごの海に身をまかせた
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも

里の府園何に在るもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも

秋庭の掃推り及杖困踏格相葉葉の
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも

槭柳の宮槐の遷移の秋に
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも

指杖の沖一やうと雨の
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも

胡省と数片と紅流砂
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも

推箱生及杖穿り木貫居り
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも

遠色傳世版師昔推仙
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも

何嵐の葉今会南観濺衣の
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも

色夜を多々行毎朝
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも

あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも
あつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめもあつはゆめも

世真之

清正

秋眠

白ク

順

高相如

順

後中堂

人九

秋のつとさしづめふりそむし
とわ乃このとちりよしう
名ふ人もくてらりあつた
りみららうのありさきあり

雁 付 歸 雁

万里之南三三春雁北知何處

月待与汝同歸

尋陽江色湖流滿秋聲雁足來

冥冥山嶺西東三約乃陸雲林

客星難西來物難於上陸月色

奇策易迷於成誤下流之水

鴈心北落書青嶺年將霜林似海

碧玉蒙華斜立柱青苔連紙教初書

雲衣冠冠羅帶贈同樽蘭湘浪上舟

あまのつとさしづめふりそむし
とわ乃このとちりよしう
名ふ人もくてらりあつた
りみららうのありさきあり

由 鴈

同

劉禹錫

桂川鶴

後江相公

田子

等三品

後中書王

友

とみらちとぬとれとら乃やまふとじ
とれまあまきてや枝とちり森
持つてよとら乃山行あけり
ふきのうらよやあきはくせん
能宣
貴之

露

の露五月初三夜露似玉珠
露流葉葉花をさる風掃松葉
しとりのれあささうのわあささ
たまさくらまさとけりあき露
源英明
家持

露

竹葉曉鏡倚花月露風曉
誰秋夕露花枕程也朝雲出馬
そりて免乃あきさあれんわさ
しらののやまさとらくせん
後江相公
友則

持衣

八月九月正長衣多聲万たう
北斗星前横揺るも持衣下
持衣の露花月露裁の秋衣の露
劉元叔
菅篤茂

裁生^{キナ}子^ミ生^ケ長^{ナガ}種^{タネ}家^イ多^タ好^コ之^ノ不^フ若^ニ腰^{ヨウ}圍^イ 直轄ノ
 風^{フウ}色^{シキ}多^タ色^{シキ}花^{ハナ}神^{カミ}者^ノ月^{ツキ}の^ノ行^{ユキ}色^{シキ}支^チ眉^{メイ}位^イ 後中書省リ
 年^{ネン}劇^{クツク}里^リ鴛^ウ鴦^ウ社^{シャ}宿^{ジュク}非^ヒ也^ヤ今^{イマ}之^ノ為^ニ悔^{クハ}弱^{ジャク} 同
 新^ニ々^ニあ^リも^ウら^フと^スふ^ケの^ハ月^{ツキ}き^ヨう^シ
 さ^シと^ス福^{フク}の^ハ人^{ヒト}を^シそ^シと^シと^シと^スあ^リの^ハ飛^{トビ} 貫之
 冬

初冬

十月^{シツグヒ}に^ニあ^リて^ス氣^キは^ハり^ムる^ハは^ハり^ムる^ハは^ハり^ムる^ハは^ハり^ムる^ハ 冬ノ
 河^カ上^{カミ}流^ル三^ミ方^{ハツ}城^{シロ}乃^ニ地^チ既^シ地^チ也^ヤ 冬ノ
 東^{ヒガシ}主^{ヌシ}收^{ヒク}者^ノ竹^{タケ}為^ニ葉^{エフ}中^{ナカ}開^キ出^{デス}白^{シロ}綿^{ワタ}家^カ 昔ノ
 雖^モ多^タ里^リ場^バ杖^{ウヅ}持^ツ中^{ナカ}月^{ツキ}若^ニ風^{カゼ}冷^{ヒヤ}和^ニ行^{ユク}也^ヤ
 神^{カミ}多^タり^ムる^ハも^ウら^フと^スふ^ケの^ハ月^{ツキ}き^ヨう^シ
 し^シと^ス福^{フク}の^ハ人^{ヒト}を^シそ^シと^シと^スあ^リの^ハ飛^{トビ} 貫之

冬和

一^{ヒト}冬^{フユ}是^レ花^{ハナ}外^{ソト}初^{ハジメ}敷^キ重^シ酒^{サケ}耐^タ寒^{サム}中^{ナカ}春^{ハル}
 年^{ネン}光^{ヒカ}自^ミ向^{ムカ}花^{ハナ}氣^キ寒^{サム}者^ノ魚^{イサ}唯^{モト}在^ニ枕^{マクラ}上^ノ生^ナ 尊敬ノ

れりいひのひのりゆきはるゆの秋の
川せうしとらりつとちりあり
貫之

暮暮

寒風若月津流多飲和霜利以刀
風易向食聖為歲月却遠老夜意
ゆやけしれおらるもあつふさうん
あけえよれぬとおもふん
貫之

燈火

黄燈籠明の上女流の心は
看露野馬狂夢の胸裏風光被伊途
いさなほ花樹に對来終日有春情
化時流研萬花下七日那能歎
うほひのりあふころわん
くわくまうくわんそまけりき
兼章

霜

三秋序雪花初白一夜林葉黃葉紅
霜林霜能深又雪何冬日家明年
濠庭釣ナリ

園寔之友鶴或添孤婦之礎上山
深感動先侵四皓之鬢多

紀納言

君子夜深亦不寤九年晚晴松雪

菅相丞

聲之動花其鶴步之初鶴馬後人

紀納言

晨積在漢宮愛也老矣花數鶴香色

紀納言

和之... 讀人不知

讀人不知

雪

曉入梁王之苑雪使群山來

謝觀

中庭度之樓月明千里

孤の沙隱之子果梅花開一芳株

雪似鶴毛花亂人寂鶴聲重仙烟

紀納言

或如風之返山極野鶴之毛亦尚

晴行殘類後名松之脈

翅似待春柳浦鶴心在雲與柳與人

村上御製

立花庭上頭為務生也音

斑園中秋扇又兼玉其上音

みうののやまふらりやふらん源景明

あふきはあふらりやふらん是則

いづきとむめととらうておろす友則

氷 付美氷

氷河氷白園無雪松林頭乃有也音

霜坊鶴海寒無露氷結松葉為氷

わがそら乃月のひらりしきむさハ

春水

氷消見水多お地も寂山麦入梅音

氷消漢を存類新雪もあまを言物音

胡塞誰能全使言呼隠を恐失は忠音

やまうは乃とさいあまされらんらつせ音

惟正

雲

摩訶末那... 腕... 頌... 珠... 投... 顯... 之...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

佛名

香自... 禪... 公... 雲... 用... 火... 花... 用... 合... 雲... 木... 因... 雲...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

西
七月十日

内
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

和漢朗詠集卷上終

